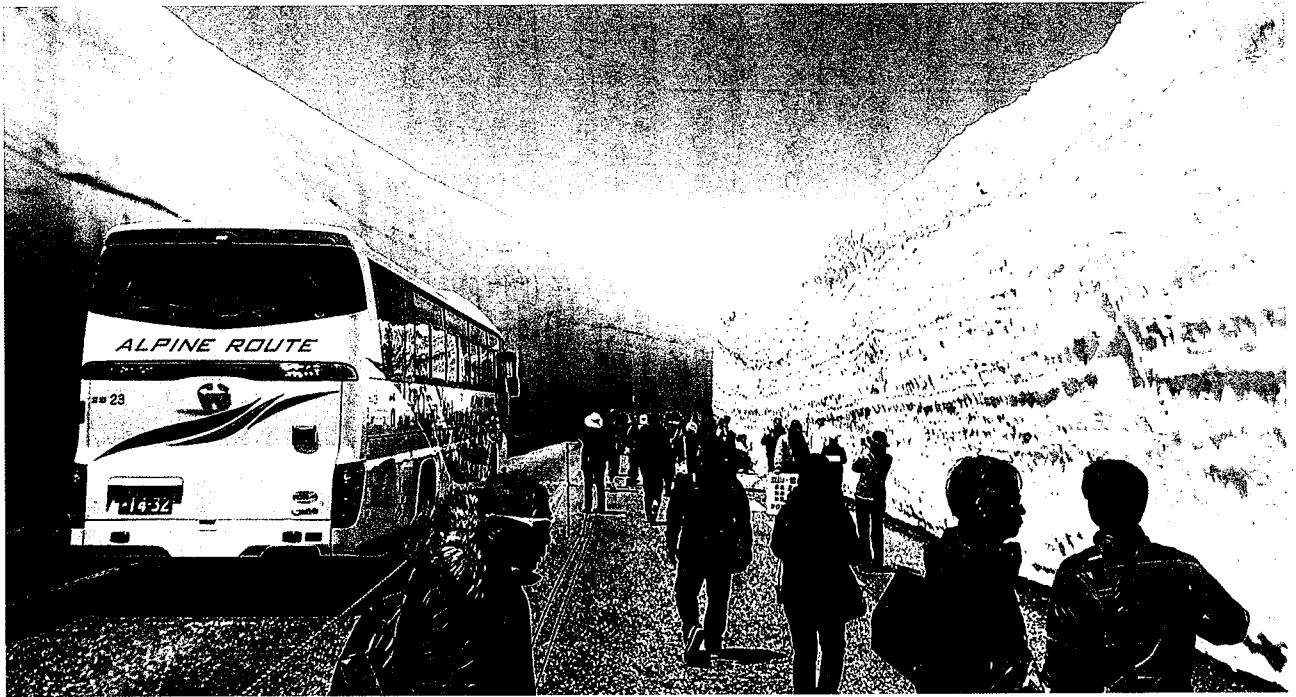


発行責任者 東京都立向丘高等学校同窓会
 会 長 宮 久 保 渡
 編 集 会 報 委 員 会
 事 務 局 〒113-0023
 東京都文京区向丘 1-11-18 向丘高校内
 TEL 03-3811-2022
 FAX 03-3812-4055



北アルプス 雪壁の大谷 (室堂にて) 名誉顧問 小川力洋氏 撮影

同窓会活動のご案内 (やよい会)

①同窓会総会

平成 28 年 4 月 24 日 (日)

受 付 11:30 ~

開 始 12:00 ~

会務・会計等の報告・審議

懇親会 12:30 ~ 15:00

場 所 駒込「源気丸」

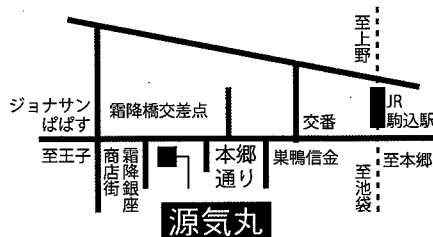
(旧磯太郎)

北区西ヶ原 1-55-27

TEL 03-5961-5011

会 費 ¥2,000 円 (他会補助)

申込方法 同封の振込用紙にて、
4 月 14 日 (木) まで
にお振り込み下さい。



②全国大会

やよい会 栃木県宇都宮大会

平成 28 年 5 月 22 日 (日)

時 間 12:30 ~

場 所 宇都宮「石の蔵」

宇都宮市東埜田 2-8-8

028-622-5488

JR 宇都宮駅より

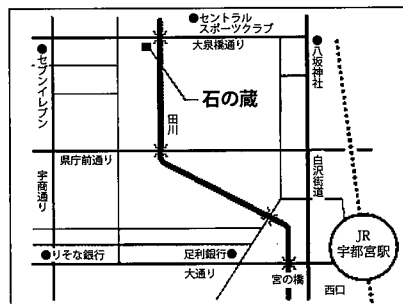
徒歩 15 分

会 費 ¥3,000 円 (他会補助)

申 込 同封の振込用紙で 5 月 10

方 法 日 (火) 必着にてお振込

下さい。



③学校訪問 (ホームカミング)

平成 28 年 9 月 10 日 (土)

時間 10:00 ~ 15:00

9 月 11 日 (日)

時間 9:30 ~ 15:00

母校向陵祭 (文化祭) 音楽・演劇
 ・研究発表あり P T A 展示室にて同
 窓会作品展あり。一般会員の出展
 歓迎 (要連絡。宮久保会長まで)



総合問合せ先

〒171-0032

東京都豊島区雑司が谷 3-14-5

東京都立向丘高等学校同窓会

会 長 宮久保 渡

TEL 090-4597-0475

メール miyakubo1405@yahoo.co.jp

ホームページ

東京都立向丘高等学校同窓会

ご挨拶

来年、高校創立七十周年を迎え、同窓会の発展と母校及び在校生の応援のため、皆様方のご支援を宜しくお願いいたします！



同窓会会長 宮久保 渡

一、はじめに
昭和四十五年卒の宮久保渡です。昨年に引き続き、同窓会財政の充実、名簿の整備、会報「やよい」の発行、校長先生をはじめ、学校の先生方及びPTAとの緊密な関係を目指してまいりました。

そして何よりも母校及び在校生への応援を心掛けてまいりました。等々、従来の取り組みを踏まえて活動を展開してまいりました。

昨年も卒業生全員に加入して頂きました。先生方のご協力で感謝を申し上げます。

しかしながら、課題もいくつかあり、この克服が必要と考えています。

①総会への参加人数が少ない。

②役員と会員・会員同士の交流が会全体に反映されてない。

③全体を網羅する幹事会体制の未整備。

④同窓会・同期会などの情報がそれぞれの会員に対し充分行き渡っていないなど、があります。

これらの改善を目差し、併せて母校と在校生の応援を目差して行きたいと考えています。

会員の皆様のご協力を心からお願いいたします。

二、総会・懇親会にご参加を
毎年、会報にて同窓会総会日を発表

し、事業報告・会計報告・次年度計画の審議などを行い、議事を決議しております。今年も、学校ではなく、外の会場で総会を開催いたします。一般的なパーティ形式です。(お酒あり)同期会・クラス会・クラブのOB会を開催したいと考えている皆様は、是非ご参加下さい。同窓会で応援を致します。

多くの皆様が参加されますようお願い致します。

また、全国大会・今年度は、栃木県宇都宮で開催致します。栃木県にお住まいの方は、こちらにもご参加下さい。

三、入会金・年会費の拝受
入会金に関しましては、一万有余の会員の皆様に、会報発行・発送をさせて頂いております。

年会費のご協力によりまして、会の運営が賄われています。貴重な財産として大切に、かつ有効に活用させて頂こうと感謝申し上げます。尚一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

四、ホームページの充実及び会報「やよい」の全員配布の継続
二十五年度中に、同窓会独自のホームページを作成致しました。まだまだ不十分ですが、「校歌」、過去のを含め「会報紙やよい」の掲載、また、思い出の写真集として卒業時のアルバムを掲載しました。これは、個人情報保護する立場から「氏名の不掲載」「写真の大きさも本人が見て、かろうじて判る程度」など配慮しています。皆様、卒業アルバムをお貸し頂きたいと思っております。

五、来年、高校創立七十周年を迎えます。既に、学校・PTA・同窓会と一緒に準備委員会を立ち上げています。是非、会員の皆様のお知恵・ご協力をお願いしたいと思っております。どうか、会員の皆さま宜しくお願いいたします。

同窓会総会報告

同窓会は、平成二十七年四月二十六日(日)十二時より、駒込駅近くの和食店で開催されました。

総会は、杉浦副会長の司会で開始し、宮久保会長の挨拶、櫻井監事・仙谷幹事長の音頭による、校歌斉唱を経て、議事に入りました。議長は、規約に従い、宮久保会長がごつとめ、①報告事項

ア、事業報告(笹山書記) イ、決算・監査報告(尾道会計・三田監事) それぞれ承認されました。引き続き、②審議事項

ア、事業計画(佐々木書記) イ、予算案(尾道会計) ウ、役員選任(宮久保会長) より、提案をいたしました。

それぞれ承認されました。満場一致で承認されました。

続いて、懇親会に入り、神能校長よりご挨拶を受け、小川名誉顧問より、乾杯の発声をもって、和気あいあいの中で進行していきましました。来賓として、杉淵副校長、高田PTA会長、山口元PTA会長のご臨席を戴きました。参加された皆さんは、それぞれ旧交を深め、時間を忘れるほど、懇談いたしました。

参加された皆様、有難うございました。今年も友人をお誘い参加されますようお願いいたします。



平成27年4月26日於駒込「磯太郎」

次なる飛躍へ



校長 神能 精一

同窓会の皆様、平素より本校を応援いただき誠にありがとうございます。宮久保同窓会長を始め同窓会役員の皆様方の暖かいご支援に深く感謝いたします。本校では、やよい「二十四号」で紹介したように、進路改革を中核とした五本柱の三年間の中期ビジョン「未来へのロマンが持てる学校の創造！」に取り組みできました。この三年間の進学実績の伸びと、その反映もあって高い人気による入学希望者選抜での安定した高倍率の維持が達成されております。なお、進路指導においては、同窓会から各方面で活躍のOBの方をご紹介いただき、毎年進路講演会でお世話になっております。また、こうした成果については、本校ホームページにも掲載しておりますのでご覧になってください。

中期ビジョン三年目が終わろうとしている中、残っている課題の解決や一層の飛躍のために次なる方策を検討する時期にきています。ご存知かとは思いますが、本校は来年七十周年を迎えます。準備委員会もすでに昨年九月に立ち上がっております。この七十年というのは教育界においては、大きな節目という気がします。日本の近代教育は、一八七二（明治五）年学制公布より明治、大正、昭和前期まで約七十五年、そして敗戦による社会の大転換により一九四七（昭和二十二）年新しい学校制度が始まりました。本校もこの新制度のもと一九四八年をスタートとして六十八年です。今また、次の学校教育への転換という大激動期を迎えようとしていると言っていると思います。

現在中教審等で「高等学校教育の質保証」が高校教育の課題となっております。この質保証には、大学との接続を念頭に

した学力と社会的な自立の基盤となる基礎・基本的な学力を念頭にしたもの。二つの面から論議されていると思います。特に、高等学校教育は、これまで実際的な学力観、つまり（大学進学を頂点とした）知識量の習得とその再生の正確性が高校教育の学力保証でした。そこでは、教師が説明したり解説したりする授業、生徒が受動的である授業がその学力保証において機能してきたことも確かです。今後は、機能的な学習者の学びの場として授業を組織・構成する学習の場の設定つまり、知識習得偏重から「育成すべき資質・能力」にシフトした「構造改革」というべき学力観の転換や授業の見直しが求められてきます。

育成させるべき資質・能力として、十分な知識・技能と、それらを基盤にして答えのない問題に自ら答えを見出していく思考力・判断力・表現力等と、これらの基となる主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けていくことなどが挙げられています。

高大接続システムの改革とは、表向きはこれからの時代を生きる子供たちを育成すべき資質・能力を身に付けさせる学びの改革ですが、実質的には（本音でいえば）大学入試改革の動きに神経を尖らせ、それへの対応を模索しているのです。ですから、高等学校教育の改革は結局のところ大学入試の改革が成否を握っているといつてよいでしょう。

本校の、次の中・長期ビジョンもこれらのことを踏まえて策定していかなければならぬと考えます。そこでは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を育成するとともに「相手の考えを理解したり広げたりし、多様な人々と協働していくことができる力」や「問題を解決に導き新たな価値を創造、新たな問題の発見・解決につなげていくことのできる力」を育成すべき資質・能力の根底に置き、「人間性や学びに向かう力」を持つことを目標に据えるべきだと考えています。今後とも本校（の生徒）の実態や実情

（育成すべき学力）に合わせた教育活動を推進してまいりますので、この伝統ある向丘高校を名実ともに充実するため、同窓生の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

向丘高校のこれから



副校長 杉測 明子

向丘高校同窓会の皆様、平素より、様々な御支援、御協力をありがとうございます。また、宮久保会長始め、同窓会役員の皆様の温かいお心遣い、心より感謝申し上げます。

本誌「やよい」を精読しますと、向丘高校を思う同窓生の方々の貴重な思い出、母校に誇りを持ち、現在も様々な分野の第一線で活躍されている方の様子など、本校の伝統が実によくわかります。私もこの会報を毎年楽しみにしております。同窓生の方々も同誌やホームページの閲覧を契機として、旧友との交流を再開されることがあれば幸いです。本校に赴任して三年目になりますが、年々生徒が積極的になり、地域との交流も深くなってきたことを感じています。本校は、次々年度に創立七十周年を迎えます。この伝統を受け継いだ堂々たる生徒の姿だと思います。

都立高校は、平成の初めまでは、普通科、商業科、工業科、芸術科、体育科等が主な学科でした。本校は学校群制度の時代には、文京高校、赤城台高校と共に大変活気のある垢抜けた高校だったという印象があります。

ところが現在、都立高校は実に多様な様々な特色のあるものへと変わってきました。その中で本校は、本当に昔からある普通科の伝統ある高校です。これだけの伝統を変わらぬ継承しているところは、むしろ少数派となりました。

ぜひ、今後も同窓生の皆さんと、この伝統を支えていきたいと願っております。現在の生徒たちの様子をお伝えします。月曜から金曜まで、五十分の授業を大変まじめに受けています。一クラス四十名ほどですが、どの学年も結束力が強く、授業中もグループワークなどが盛んです。土曜日は授業はありませんが、「土曜塾」と称した講習や自習室を活用して、多くの生徒達の学習や目標を明確に持たせるために、キャリア教育も充実させています。毎年、宮久保会長のご尽力により卒業生をご紹介いただいて進路講演会も開いています。今年度は、鳥飼総合法律事務所鳥飼重和弁護士（昭和四十年卒）にお越しいただき、「働くとはどういうことか、高校生として今考えるべきことは」をテーマに講演をしていただきました。

生徒のほとんどは進学を希望し、センター試験は八割以上の三年生が受験します。同日模試には多くの一、二年生が参加しています。

また、部活動は新入生全員に加入させ春先は学校中に部活の声が響き渡ります。スポーツだけではなく、芸術、文学等にも能力を持った生徒たちがおり、文化祭や外部のコンクール、地域の催しにも積極的に参加しています。

こうした同窓生の方々や地域の方々の御支援により、生徒たちは頭が一杯、心も一杯になります。けれど、さらに夕方に主体的に活動するたくましさ、本校の生徒にはあります。これも七十年を迎える伝統の積み重ねによるものではないでしょうか。この伝統のほんの一時代ではありますが、私も関われたことを大変嬉しく思っています。私の実家は文京区にあり、小学校の頃から、向丘高校のことはよく知っています。同窓生の皆様とともに、今後本校の伝統を守り、発展させていきたいと強く決意している次第です。今後とも御協力、御支援等よろしくお願い致します。

第六十五回全国高等学校PTA連合会大会 岩手大会



PTA会長 熊谷 明子

平成二十七年八月十九日から二十一日の三日間、向丘高校のPTA代表と致しまして、校長先生、副校長先生とともに岩手県へ行って参りました。

行程の中には皆様も忘れる事のできない東日本大震災で最も被害のひどかった海岸地区、南三陸陸前高田市もあり、当時のまま残されている道の駅の建物は、中に松の木や鉄筋、ガレキが山になっていました。海の近くの平野には、山を切り崩し盛り土をするためのベルトコンベヤーがあり、大きさは日本最大で、その費用は一三五億円もかかったそうです。そのようなガイドさんの話を聞き、展示ルームも見学し、東京に居ては知る事ができないことも沢山あり、胸が苦しくなりました。このような実態を知っても何もうできない自分ですが、少しでも伝えたいという気持ちでおります。我が高校では震災後より向陵祭にて三陸の物産の復興支援販売を行い、収益を都高P連を通じて岩手の三施設へ寄付しています。

さて、本題の全国高等学校PTA連合会大会ですが、六十三年前岩手で設立され、それから毎年各都道府県で開催され、高校生の教育について議論されています。大会は二日間、全国のPTA関係者約一万人が出席しました。会場も幾つかに分かれていて、各会場ごとにテーマが設けられていました。芝浦工業大学学長や盛岡市出身の映画監督、大友啓史氏(代表作のろくに剣心など)の講演もあり、テナポの良い語りで楽しく、かつ家庭教育に役立ちそうな講演でした。

分科会の一つでは向丘高校の事例発表があり「テーマ メール配信による取り組み」で、内容は向丘高校PTAの中では当たり前と思われるPTAメールの重要性、システム導入の経緯やメリットを全国のPTAの方々に向けてアピールしました。質疑も集中し、かなりの反響がありました。他県の方々がこの発表により興味を持ち、取り入れたいという意思がみえました。この発表は「平成二十七年年度優良PTA文部科学大臣賞」を受賞し、その賞状は通常の賞状の大きさより一回り大きく威厳があります。校長室の前に飾ってありますので来校の際には是非ご覧ください。



昭和49年卒26期 同期会報告

日時 平成27年10月24日(土) 場所 品川プリンスホテルメインタワー オパール17階

代表幹事 石川宣司さんの呼びかけで、秋晴れの中、同期会が開催されました。還暦の年という事もあり、赤い物を身に着けて、華やかな色合いの会場になりました。佐藤正和先生、岡本ゆり子先生に御出席いただき、総勢八十名の参加者が思い出に浸り、楽しく過ごしました。最後に五年後の開催を、決定致しましたので、御報告いたします。健康に感謝しつつ、又5年後に再会しましょう!! (D組 並木(旧姓大金)多鶴子)



昭和三十一年卒 同期会開催



向丘高校8期同期会 / 駒込 磯太郎

同期会（十八期生）毎年開催
のための拡大幹事会



昭和四十一年卒
谷嶋 一二三男

毎年同期会を開催しているところは、珍しいのではないかと思います。今まで、二年置きに開催していた会を、さらに毎年の開催にした理由は、転居等があっても住所不明にならないこと、また、皆さんが高齢になり、元気なうちに会っておく回数を増そうということからです。幹事の負担が大変かと思われませんが、パソコンやイン

ターネットが発達してきている現在では、同期の方への連絡は、容易に済ませることができるようになっております。毎年行っていくと、お互いの話も継続性も出てくるようになり、数年おきに開催した時の、新鮮さとは別の利点も生まれてきます。また、毎年参加したい方、三年に一度来られる方、それぞれの都合で参加できます。参加者数は、延べ人数にすれば、毎年開催の方が、断然多いことにもなります。

卒業後五十年経った今も、多くの方が集まり、また初めて参加する方も毎回現れており、感心しております。会合では、今は何の企画もせず、ただひたすらお互いの会話だけで、時が過ぎてしまします。同じ高校を同じ時期に卒業したというだけで、日頃他人には話せないようなことも、気軽に話してしまう同期生とは、不思議なものです。

同期会の案内では、近況報告もお願いしており、不参加の方の報告も含め、すべて一覧表にまとめ、参加者には同期会当日、不参加の方は、次回の案内の時に配布しており、楽しみの一つになっているのではないかと思います。さて、今年も同期会を開催予定です。そのための拡大幹事会を同窓会の日に行い、日取り等を検討いたしますので、都合のつく方は同窓会にご参加ください。また、転居などで、同期会の連

絡が届かなくなつた方は、ぜひ一報ください。
(谷嶋・携帯：080-6782-4915)。

還暦を過ぎてからは

二年毎に同期会

昭和四十五年卒

山口 義朗



恒例により平成二十七年十月十七日(土)の午後に、我々四十五年卒の同期会を四十二名の出席者により開催することができました。残念なことには吉田善雄先生、小倉雄二先生、江川茂彦先生、米谷貞子先生にご案内させていただいたところ、諸先生にはそれぞれの事情で欠席されたことでした。過去二回は平河町のホテルにて立食形式で行っていましたが、今回は趣向を変えて歳もとったこと

だし着席でゆつたりと、おいしいワインとイタリアン料理を堪能しながら語る会とすることを幹事一同で話し合い、場所は四ツ谷駅に程近い「リストランテ Kaminari」に決めました。このお店は、今回の幹事の一人である神谷(旧姓・羽計)佳代子さんの旦那様が経営するお店で何かと融通を利かせていただけたことが決定の大きな要因でしたが、結果としてお店からとっておきのワインの差し入れ、料理の追加等、特別大サービスをいただき一同感謝、感激した次第です。前菜からパスタ、魚・肉料理、野菜料理がどんどんと運ばれる中、それぞれがワイングラスを片手に乾杯の輪がこちらこちらに出没して賑やかなパーティとなりました。そしてみるみるうちにワインの空瓶が林立してくるほどにおしゃべりの声が大きくなり、最高潮を迎えたところで今回の余興のビンゴゲームの開始となりました。

皆さんご存知のとおり、Bの六、Gの五十八、と続きますがなかなか揃わないのがこのゲームの面白ところでしょうか？ そうこうするうちに一人、二人と上がり五人の入賞者が決定しました。賞品はクオカードと副賞に二年後の同期会の幹事役！ 決まった方々から次回に向けての挨拶があり、すんなりと一次会は盛会のうちに終了することになりました。二次会は河岸を変えて一次会場

から徒歩で三分のところにある

「合点承知之助」という純和風の日本酒が豊富に置いてある居酒屋で開催しました。出席者のほとんどの人たちが参加するほか、向丘高校同窓会長の宮久保君ほか数名の同期が駆けつけ、アルコールの下地が十分とできているおかげで一層賑やかにワインに取って代わって日本酒の飲み放題の開始となりました。お互いに利害関係が無く、ただ同期だということだけでリラックスして語り合う光景は還暦から四年を過ぎたとは思えないほど皆は若々しく輝いていました。やはりこういう場所に出て来られるということ、それぞれが自ら何らかの障害等を乗り越えて出席を可能にしていることであり、お互い幸せなことだねというのが出席しているみんなの一致した意見でした。

その後三々五々に三次会へ出て行きました。二年後の同期会は一人でも多くの方に出席してもらいたいと願いながら、今回の幹事団から出席の皆さんに感謝申し上げます、選抜された新幹事に引き継いでいきたいと思えます。
(今回幹事)
宇塚恭子、神谷佳代子
金子喜代美、金坂吉雅
山口義朗

同窓会をしよう

平成元年卒

吉橋 美樹

それは、一通のメールから始まりました。平成二十五年五月の連休の早朝に届いたメールは、体育の野村先生からのもので向丘高校でバレー部の練習試合があるので会いたいという内容でした。(最初の指令)そこで、野上さんを誘い二人で会いに行きました。

「同窓会をしよう」野村先生からの次の指令に、とりあえずプチ同期会をすることにして、連絡がとれる女子十数名で十月に行ないました。

最後の野村先生の一言「今度は、全員集めて同窓会をしよう」

どうしたものか、と思つて一うちに一年が過ぎて、平成二十六年十一月に横山くん発信で、同窓会の連絡が入りました。

私は、生憎参加出来なかつたのですが、同窓会は、十名でその時に参加した篠さんが横山くんをけしかけて、私と、横山くんの幼なじみの辻さん。会場を提供してくれた平出くんの四人で同窓会を開催することになりました。

今回の同窓会は、ハガキを出さずに連絡がとれる人に連絡が来た人をお知らせをするという形で行ったため、この報告を読んでも初めて知った人もいるかもしれませぬ。平成二十七年六月二十五日、ホ

テルグランパシフィック LE DAIBAにて都立向丘高校平成元年卒業生同窓会を行いました。

参加者は、卒業生六十二名、担任の国語の大田垣先生、体育の野村先生、理科の岩田先生、社会の平田先生、数学の柿倉先生、社会の真中先生の六名、数学の川口先生、社会の草野先生、社会の甲野先生、三名でした。

詳しい、当日の様子は川口先生のブログ(マーちゃんの数独日記)で同窓会で検索をしてください)をご参照ください。

当時、ハクラスあつたので、名前を見てもお互いわからない人もいましたが、時間が経過するうちに、向丘高校の雰囲気ってこんな感じだったなあと懐かしくなりました。

そして、この日の最後に「来年は全員呼んで同窓会するぞ」という指令をいただいて幕を閉じました。

十一月現在、まだ何もきまつておりませんが、参加に悩んでいるのでしたら、とりあえず来てみてください。わだかまつていたことがすつきりするかもしれないし、会いたくない人のために本当に会いたい人に会わなくていいのかなって思うのです。

では、次は会場で。はがきが届かないという方は、よく知らなくてもお気軽にこちらにメールをください。よろしくお願ひします。

4484miki@mail.com
三年三組 吉橋 美樹

今回幹事をさせて頂いた横山です。約四半世紀振りに会ったにもかかわらず一瞬にして高校生に戻れます。(笑) 吉橋さんも言っていました、色んなわだかまりも有ると思いますが、とりあえず参加してみてください。

それと、向丘卒業生で同窓会の場所等にお困りでしたら、平出君が勤めるホテルグランパシフィック LE DAIBA をご紹介する事もできますので、この件に関してもお気軽にメールをください。
southakento@mail.com フェイスブックでも構いません。

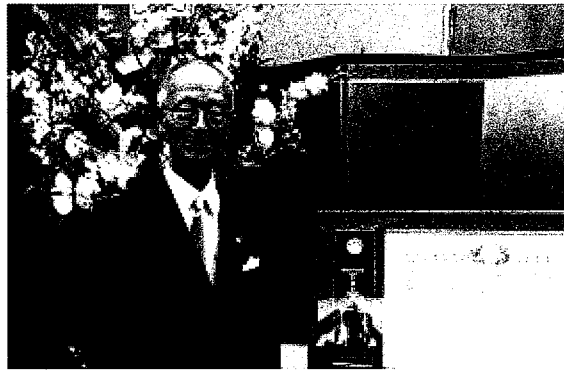
三年三組 横山 秀孝



同窓会だより

名誉顧問小川力洋氏
叙勲 瑞宝单光章受賞する

受賞記念祝賀会開催される
平成二十七年十二月十七日
於 北トピア



天からの恵・ご褒美
叙勲受章のご報告

名誉顧問 小川 力洋

此度、二十七年秋の叙勲において「瑞宝受光章」を拝受いたしました。

これは、四十余年間、国勢調査をはじめ、工業・商業等、各種統計調査の職務を全うしたということでした。

記録によりますと、昭和四十九年（多分三十五歳頃）から通算六十三回に亘るものと伺いました。

町会長からの指名により、ただただ続けて参りましただけの事ですが、この事象をご担当の総務省が認めて下さったもので、「天からのお恵み・ご褒美」と有難く感激いたしました。

また、町会長が発起人となつて下さり、町内会を中心として、ご来賓に北区長様をはじめ、関係団体の代表者や、友人方に祝つて頂き、記念祝賀会を挙行することができました。

私にとつて人生最大の幸福者と感謝いたしております。今後とも一層精進し、些かなりとも、ご芳情にお応えいたしたいと存じますので旧倍のご厚誼、ご鞭撻をお願い申し上げます。あわせて皆様共々に幸多かれと、ご祈念申し上げます。謹んでご報告させていただきます。

議員として想うこと

昭和四十六年卒・札幌地区幹事
札幌市議会議員
恩村 一郎



恩村 一郎

早いもので大学を卒業と同時に就職のため生まれ故郷の札幌へと戻つて、この春で四十年になる。地元テレビ局でのサラリーマン生活を足かけ二十三年、縁あつて札幌の市議会議員となつて十七年の月日が過ぎようとしている。

社会人なりたての一九七六年（昭和五十一年）当時、一二四万人であつた人口が、今や一九四万人の大都市へと変貌しその変わり様には目を見張るものがある。その札幌が今、二回目となる冬季オリンピック（初のパラリンピックも併せて）の招致に乗り出そうとしている。二〇二〇年東京オリンピックの開催に刺激を受けた訳ではなからうが、世界的に温暖化が進む中、大規模なウインタースポーツの大会を開催できる場所（都市）が減少していることと、一九七二年の冬季オリンピック札幌大会時に建てられた、多くのスポーツ施設等が建て替え時期を迎えていることも合ひまつて、オリンピック、パラリンピックの開催で、札幌の街のインフラ再整備を図りたい、との市民、道民の強い想い

もある。ただしご承知の通り、昨今のオリンピックは放映権の問題、施設整備の問題やら、多額の費用がかかりすぎるのが、開催のネックにもなつており、決して手放して歓迎できるイベントでなくなつてきていることも確かであろう。とは言え老若男女、多くの人々に夢と希望を与えるオリンピック、パラリンピックは、やはり魅力あふれるスポーツイベントであり、なんとか効率的な費用で大会招致を図れるよう、議会全体としてバックアップして行きたいと考えているところである。

ただこうした明るい話題に反して、このところの世界の社会情勢を覚える事案が多くなりすぎている気がしてならない。IS、無差別テロはもとより、選挙結果であたかも全て白紙委任されたかのような振る舞いの、現政権の政治手法。民主主義とは言ふものの、あまりに一党独裁的になりすぎてはいないか。これからの日本の進む方向に一抹の不安を覚える。自分たちが育つてきた戦後民主主義の大きな転換期を迎えているのかもしれない。

振り返つてみれば自身の高校生時代は、丁度七十年安保華やかなりし頃で、自校でのバリケード封鎖に始まり、東大の安田講堂事件やら三島由紀夫の市ヶ谷駐屯地の自決事件等々、高校生にとつては刺激の大きな事件がずいぶんと

あつた気がする。でもその都度、選挙権はないものの、高校生なりにいろいろと政治について考える機会が多かつたのも事実である。

若者の政治離れが叫ばれて久しいが、地方議員として政治の世界の末端に身を置く者として、昨今の国政の有り様に不安を覚えると共に、一番関わりが深くなるはずの若者世代が、一向に疑々を唱えないでいることに、首を傾げることも多かつた。しかし昨年の安全保障関連法案の採決に際して、多くの若者たちがこれら法案の採決に反対の声を上げ始めた時には、まだこの国には健全な精神が残っているのだ、と思わずにはいられなかつた。法律を作れるのは国だけである。法案整備に際し、国会議員にはもつと謙虚に、国民が納得できる手続きと議論を重ねるべきである。将来を託す若い世代に禍根を残すような、初めに結論ありきの姿勢は、政治家としてとるべき姿ではない。負の財産を残すことなかれ。

今年には参議院議員選挙が行なわれる。初めて十八歳以上が選挙権を持ち一票を投じる。これからの日本が真の民主主義を堅持し、世界の要としての役割を果たして行くよう、健全なチェックアンドバランスの保たれる政治状況を、ひとりひとりの責任で作りに出して行かなければいけないと思う。次代を担う子供たちのためにも・・・。

人生の本舞台は常に将来に在り



昭和四十七年卒
尾崎 富雄

卒業後四十五年を経た今、ふと在学中にご迷惑をおかけした教職員や同級生の皆様方に謝罪したい衝動にかられた。

「大変ご迷惑をおかけしました。」
在学中の三年間は、私自身による無気力・無関心・無責任の三無主義の呪縛が解けず、明日は「檜」(あすなろの俗説)になろうと思いつつも、態度や行動が伴わない苦難の日々を過ごした。東大安田講堂事件の余波などもあり、逆風も吹いていたが、それを言い訳にするつもりは毛頭ない。

四十五年の歳月が流れた今、それは失われた三年間ではなく「人生の本舞台」に向けた充電期間であつたと前向きな心境に転じた。この間、四十五年の月日を要した。

六十二歳を迎えた同級生の皆さんは、誕生以来、規則正しく心臓が鼓動している脈拍数は三十億回くらいになるらしい。この間、一度も大病せず健康で元気に暮らしている方は「この上なく」幸せである。残念ながら会報(やよい)で訃報に接することもある。一方で、現在も現役でバリバリ働いている方や、地域の社会貢献に汗を流している人、年金暮らしで海外

旅行など優雅に暮らす人など、生き方は十人十色である。

ところで、尾崎って誰だつたっけ?と思ひめぐらしている方もいるのでは。私は、漠としてはいたが、常に「高い志」だけは抱いていた。しかし、空回りどころか勉強や部活には一向に熱が入らず、純粋な恋の花ひとつと咲かすこともなく、在学中は影の薄い存在であつたと思う。

卒業後、システム・エンジニアを目指して某大学の電子工学科に進んだが、依然として勉強にスイッチは入らず、挙句の果て無謀にも世界へ飛び立とうと夢を抱き、アメリカン・ドリームに向けて始動した。結果は、想像に難くない。その後、幾多の変遷を経て一番嫌つていた公務員生活に入るようになった。不出来の子を案じる亡き母の強い要望である。私の人生は半分終わったなと諦めた。その時には、やがて大きな試練を受け、私の新たな挑戦が始まるうとは夢にも思っていなかつた。

人生の転機はいくつもある。進学や、就職、結婚、子育て、介護など、その時々々の選択によって、人生が大きく変わることが多々ある。本人の努力だけでは如何ともし難い面もあり、時には運に恵まれることも、見放されることもある。それは、人生の宿命であり醍醐味とも言えよう。

さて、話題は転じるが、初代東京市長で後に国政に入り「憲政の

神様」「議会政治の父」と称された尾崎行雄氏(私の父と同郷の相模国津久井郡又野村出身)は、逝去される前年の九十四歳の時に「人生の本舞台は常に将来に在り」と信念を吐露した。「昨日までは人生の序盤にすぎず、今日以後はその本舞台。過去はすべて予備門で、現在以後がその本領だと信じて生きる。」という人生観である。(国会議事堂の向かい側に尾崎行雄記念館、今の憲政記念館がある。)

長寿社会を迎えた今、私たちに、まだ十分に残された時間がある。今後余生をどのように生きていくか。もちろん各人の健康上や家庭の問題などもあり自由裁量である。しかし、自分は何のために生まれてきたのか。家族や地域、社会と関わりをどう持つべきか。自己の幸福を追及する先に何を掲げているのだろうか。今一度、原点に立ち返ってみたい。

私は今、目黒区教育委員会の教育長という公務員生活の舞台に立っている。

しかし、氏が説く人生の本舞台は、まだ遠い先にある。常に健康を維持しながら「志」だけは高みを目指してゆきたい。

結びに、向丘高校の活躍と同窓会のさらなる飛躍と発展を祈念します。

ご意見等がございましたらメールへ願います。

Eメール：
uqn9337@softbank.ne.jp

アズナヴァールと阿久悠と

昭和二十九年三月卒
小野寺 榮光



八十歳過ぎて部活に顔を出すのは確かに普通ではないかもしれない。しかし昭和二十九年三月からの六〇年間、全てを同じように続けられた訳ではなく、六年間の入院ギプス生活をはじめとして、「胆嚢炎」「十二指腸」「胃」と、「ポリープ」だ、「癌」だと経験して来たのは、むしろ過ぎる程に当然です。

大学で初めての授業で会った三人が後にまで続いた仲間でしたが、その内の一人である「深田公之（阿久悠）」の死は、とても軽々しくは書けないもので、「青春時代」

の終わりを唯々実感しました。「シヤルル・アズナヴァール（写真）」との出会いは先号で紹介しましたが、六年間の入院生活は想像以上のショックで、退院して見た体育館と生徒達は遥かに遠いものでした。

それから四十五年後にお会いした阿部匡彦先生は類（たぐい）稀な指導力をお持ちの顧問で、高体連の技術指導員として、選抜された高校生を合宿でも熱く指導される事で有名です。ナショナルチームの監督など実現したら「ジャパン」の金メダルは更に近くなる確信を強く感じる程です。お会いした多くの先生方の中でも飛び抜けたセンスとプレーぶりで、実力は国内でも知れ渡っています。

一昨年、夏季大会で都内三位の表彰を受けましたが、向丘としてはもちろん初めてで、サポーターの一人として私も感激しました。あつと言う間の六十年間で、今はその速さにどう合わせて行けば良いのか、途惑っています。

バレーボールには「一人時間差」と言うのがありますが、八十才を過ぎてのそれは、「リベロ」も、「セッター」もいない。「ロンリーナイト、ロンリーウエイ（自分勝手）」と言う策でいくしかありません。

全国大会 やよい会山梨県甲府市大会に参加して

昭和四十年卒
鈴木（村田） 公子

やよい同窓会報で全国大会が今年甲府市で開催されるといふことなので気になっておりました。さりながら、同期生がいらないのではなど考えあぐねておりました所、同期生の井上芳子幹事より誘いの御連絡を頂きました。井上さんとは大柄な佐藤先生の美術の授業で、お互いに向かい合って鉛筆デッサンし合ったこと、また彼女は華奢な体つきにも拘わらず重そうなりユックサックを背負い黙々とあのガタビシの木造の階段を上り下りしていたことなど思い出しました。甲府で生活していることもあり、今までクラス会にも参加したこともないまま年月が過ぎ今回国大会という機会を得て御陰様で半世紀振りの高等学校時代に返ることが出来ました。

私は一九四六年生まれなので「戦後生まれの子がもうこんな大きくなった。大きくなった」という大人達の声が常にあるなかで育ってきた世代です。人文地理の新島先生はよく江田島海軍兵学校では、この位の教科書などは二、三カ月位で修了してしまうなどの凄まじい詰め込み教育だった話をよくされました。男子生徒達は授業に飽き飽きすると、先生をそち

らの話にチームプレーで巧みに誘導したものです。数学の中村先生は戦争中、中島飛行場で、飛行機の設計技師をされておられたので教えるのは不慣れで本当にお気の毒でした。今振り返ると先生方の青春時代は戦争中だったのだと改めて思いました。

同じ組でも就職コースと進学コース（文系・理系）で科目に依っては別々の教室での授業でした。他の組の同じコースの人と知り合う機会となりました。私は将来について何も考えていなかったもので、周りの人達が、進学に向かっていたら、進んでいくのがとてもまぶしかったものです。また、就職コースの人達が、適性検査や面接の練習に励んでいる姿は、一歩早く社会人になる自信と喜びに満ちており、「大人だな」と圧倒されました。彼女達は、超一流企業に次々に就職が決まり、男子生徒が「すげえーこんな大企業に」と羨ましがったものです。当時は高度成長期前夜の頃でした。何もかもが、今と違い明るく希望に燃えていた良き時代だったと、思い出話に大いに花が咲きました。

お別れのバス停で参加者一同蜜から学生よろしく、「高校三年生」を合唱。同窓生っていいな！と心底思いました。東大の附属高等学校とよく間違えられたあの校章向丘高等学校での我が青春の日々、急に胸が一杯になり、涙で遠ざかるバスが霞んでしまいました。



再見！再見！

やよい会山梨県甲府市大会突然向丘高等学校での青春がいっぱい詰まった宅急便が届いたようでした。

宮久保会長、同期生杉浦副会長始め役員の皆様どうもありがとうございました。末筆ながら、ペンギンのニツクネームだった英語の津田先生が亡くなられたとのこと、津田先生は一年生の時の担任でした。謹んで、ご冥福をお祈りします合掌。

二〇一五年六月八日

クラス会を重ねて

昭和四十年年度卒

井上 芳子

三Aクラス会の楽しさの由来は何か。歓談の味わいは、食さざれば知ることのない佳肴。

面白く、やがて悲しい会という一面もある。篠崎美幸さんの奥様の長い協力による会場。(駒込・思い川)。パティシエ篠崎さんのケーキが切り分けられて、毎回おひらきになる。その奥様は、今はない。哀しい。

登別からご夫婦で参加していた寺上隆博さんは、飄々と楽しそうだった。洋子夫人が今はお一人で出席されている。北海道の生チョコの美味も、ほの淋しい。

九年前の還暦には再現修学旅行(熱海初島)で、船上や宿で語り

合った。幹事さんに、どうしてこれほどの御足労を、と問うと、さりと「達成感かしら」との答え、代表幹事は、高橋重雄さんと古川治子さん。お世話さます。

高一の時の亡き川井隆太郎さんから「たまには同期会に出て下さい」と注言を受けたが、形見の言葉になつてしまった。

今は、ご案内が届くと喜んで出席の返信。予定は無視、目の離せない介護も目をつぶり、と、お調子者に変身してしまつた。

平成二十七年十一月の会場(四谷東京ガスクラブ)は、宇都宮久馬さんのお力添えで、北海道、岐阜、群馬など遠方から雨の中を一堂に会す。

申し込みを締切ると、参加者名簿が郵送されて、会終了後に集合写真と全体名簿が届く。

二年生次のクラス替えにより、担任が津田龍一先生から野崎三郎先生へ。三年間一緒の人以外は、その後二度と再会できていない。

四月の同窓会には、三Dのメンバーが多数出席して、音信不通の友の電話が判明、懐かしく連絡する。ひと声で十五歳の往時に戻り、同窓会再会を約す。分厚い向丘同窓会名簿から、熟慮の上、山岳部の上級生に電話をすると、次の集まりに誘つてくださるといふ幸運なこと。顧問の先生が五名、部員が三十名以上で、古い部報三冊分の復刻版を二十部持参するも不足。引っこみ思案のままでしたら、

豊かで苦しい部活や、良き級友を思い出すこともない。

級友の誰彼も今なら思い出せると、うそぶいてみる。素敵なエピソードを秘めていれば、話題にと欠かず、現在の良い発見がある。

何の因果か果報か、始業ギリギリに駆け込みオーライで、余裕登校していた友は不明のまま。平凡な毎日、その基盤があつてこそ、こだわりを越えて穏やかに、かつ活発に談笑できる。

半世紀を越える暮らしの喜怒哀楽は、こもごもで向丘時代の恥多き日々が、たまたまなく可笑しい。歳月のごほうびかもしれない。

東京五輪のファンファーレが鳴り、思い出の国立競技場を世界のスポーツ選手が行進し、聖火が灯り、空にはブルーインパルスが五輪の色彩マークを描いて、飛び去つた六十年代。

三Aに巡り合えて、また、さらにと別れる有意義で上質なクラスメートとの、ひととき。皆さまどうぞ、お健やかでありますように。

半世紀ぶりの再会



昭和四十年卒 杉浦 重治

平成二十七年の同窓会では、高校卒業以来、半世紀ぶりの再会が

ありました。F組のメンバー内田(旧姓青木)・斉藤(旧姓栗嶋)・澤田(旧姓藤村)・相馬(旧姓飯田)・竹内(旧姓山田)の五名と新潟大会以来の小山(旧姓吉田)計六名が参加してくれました。予期せぬ再会であつたので驚きと喜びで感動しました。卒業記念アルバムの写真を見せてもらいなながら当時のこと、その後のこと等、短い時間ではありましたが懐かしくも楽しい一時でした。ミニミニクラス会(女子会?)でしたが、今後は多くのメンバーが参加してくることを期待してます。

旧ユーゴスラヴィアを旅して

昭和四十七年卒

佐々木 郁子(旧姓遠野)

昨年の九月末から十月にかけて、旧ユーゴスラヴィアから独立したボスニアヘルツェゴビナ・クロアチア・サラエボ・モンテネグロ・セルビアの四カ国を旅した。旅の友は向丘高校同窓会の役員として時々顔を合わせていた一年上の先輩だ。

九日間の旅は、セルビアの首都ベオグラードから始まり、ボスニアヘルツェゴビナ・クロアチア・モンテネグロとバスで回った。ユーゴのチトー大統領の逝去から始まった内戦の混乱から二十年を経過しているが、未だに内戦の激しさをうかがわせる銃弾の跡が各所

に見受けられた。破壊されたビルを建て直さずに修理して使い、銃弾の跡をペイントするなど工夫しているが、それはやはり戦いの跡なのだ。民族と宗教の絡んだ内戦の激しさは今でも十分に伝わってくる。それらを見るにつけ、命をかけてまで争い守らなくてはならなかったものは何だったのかと考へさせられた。強権で支配する独裁政治が良いとは思わないが、これほど民族と宗教が入り乱れている土地では、それらも必要だったのかも知れない。民主主義が一番と単純には言い切れない。

サラエボ事件の現場であるラテインスキー橋を歩いた。ここで起こった暗殺事件が第一次世界大戦を招いたと思うと、少し足が震えた。犯人グループはテロリストであるが、現地では英雄と考える人もあるとのことで、歴史認識も様々と再び考えさせられた。

ドブロボニクやコトルのような美しい城壁都市を見学した時は、屋台で買った焼きトウモロコシやソフトクリームを食べながら、自由時間ぎりぎりまで町歩きを堪能した。

学生時代美しく憧れていた先輩と一緒に旅行で、寝ている間いびきをかいたりして嫌われないかと当初つまらない心配をしていたのだが、懐の深い先輩は終始ニコニコと付き合ってくれて感謝でいっぱいだった。残念だったのは、一度だけダブルベッドとソファベッド

の組み合わせの部屋になった時、先輩は「一緒に寝よう」と言ってくれたのに、畏れ多いとソファベッドに寝てしまったこと。自分の気の小ささが悔やまれてならない。



楽しかった思い出

昭和四十六年卒
笹山 幸子

今年一年で一番思い出に残っているのは、何と言っても二〇一五年秋のクロアチア九日間の旅。同窓会仲間の佐々木さんに誘われ参加した。もともと最初彼女は私に話に乗ってくるとは思っていなかったそうだが…。卒業後四十年勤務して初めての

長い休みをとり、ワクワクと同時に不安もいっぱいだった。でも一人旅でなく、気心の知れた友人がいるのでとても心強かった。

ツアアの申し込みから成田行きバスの手配に至るまで、佐々木さんは快く引き受けてくれた。私にとつては初めての海外旅行のように感じられ、見るものすべてが新鮮だった。

クロアチア・ボスニアヘルツェゴビナ・セルビア・モンテネグロ四か国周遊の旅：歴史に身を任せながら各地を市内観光、大聖堂・城壁・橋などを見学。ドブロボニク旧市街をみては「ガイドブックのまま！」と感動し、パチリ。でもデジカメ超初心者私の写真よりもガイドブック掲載の写真の方が断然きれいだ。

思い出盛り沢山の旅だったけれど、一番残っているのは、最後に訪れたプリトヴィツェ国立公園。そのスケールの大きさと素晴らしさ。数多くの滝と木々の織り成す風景。散策コースの橋が湖水面ぎりぎりには掛けられていて、自然を肌で感じられる気がして嬉しくな

った。最後に、何と言ってもよかったのは、九日間天候にも恵まれ、無事に過ごせたこと！もめることもなく、お互い程よい距離感で楽しめたと思っている。これは偏に佐々木さんのお蔭です。楽しい旅を有難うございました！

全国大会（甲府大会）報告

甲府大会は、二十七年五月二十四日（日）甲府市内のホテルで開催いたしました。当日は、同窓会幹事十一名、山梨県在住一名、計十二名で開催されました。参加者が少なく、寂しかったのですが、交流を深めることが出来ました。有難うございました。（山梨県在住の方に呼び掛けのハガキを出しました）学校と同窓会の近況報告をし、それぞれの方から自己紹介と近況報告をしました。皆様には、今後とも同窓会へのご参加をお願いいたします。

今年、栃木県宇都宮市で開催致しますので、栃木県在住の方には、往復ハガキでご案内しますのでご参加をお願いします。



その他の報告事項

学校との共催で、在校生へのキャリア教育講演会(二十七年十二月二十二日 於 体育館)

鳥飼 重和さん

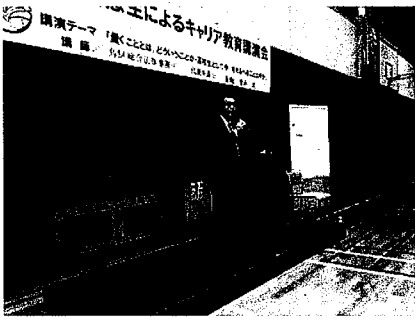
(昭和四十年卒、弁護士)

「挫折からの人生も悪くない」「人生は、夢とファンタジーの世界」ご本人の高校時代の言葉とその後の税理士、弁護士を通じて、一般的には、マイナスの環境であっても、拒絶を受けても「目標を持ち、努力し続ければ必ず実現する。それができるかどうかは、自分次第である、それを妨げる人は、だれもない」旨の講演をされました。

約六〇〇名の生徒の皆さんは、熱心に聴いていました。

その後のアンケートでも生徒達より、講演内容を積極的に受けとめた感想が多くありました。

(宮久保記)



講演者募集、自薦・他薦大歓迎

特別寄稿

向丘高校PTA会長OB会の紹介

代表幹事

山口延利

同窓会の皆様には耳馴れないと思いますが、PTA会長OB会の紹介をさせていただきます。当会は、向丘高校の歴代のPTA会長を務めた人達の親睦と交流を図り、向丘高校を側面あつたるいは後方から支援することを目的として、十四年程前に発足しました。

会員には、平成元年度から直近までの退任会長が名前を連ねています。年間の活動は、向丘高校の三月の卒業式、四月の入学式のご案内を頂いて出席し、お祝い申し上げます。

四月には「春の散策」と称し、都内あるいは近郊へお花見を兼ねて名所旧跡を訪ね、見聞を広めています。

九月の向陵祭の時は、学校近くの寿司店に集合し、昼食を済ませてから学校に向かい、生徒達の活動を見てから、同窓会やPTAの役員の方々と懇談し、親交を深めています。学校の様子を伺う良い機会でもあります。

そして、毎年十一月最後の土曜日には、「少し早めの忘年会」と銘打って、駒込の女子



向丘高校PTA会長OB会 2015年忘年会 於 松伯軒

栄養大学内の「松伯軒」を定席として懇親の集まりを開いています。毎回十〜十二名程のPTA会長OB達に加え、関根茂前校長先生、同窓会からは、小川力洋名誉顧問、宮久保渡会長、さらに昨年は役員佐々木郁子さんにも出席していただきました。

また、この席は小川さんの叙勲を祝う会も兼ねて催しました。OB会一同、心よりお慶びを申し上げます。

来年は、向丘高校が開校七十周年を迎えることので、私達も同窓会と連携をとりながら、周年をお祝いしたいと考えております。

今後とも、向丘高校PTA会長OBへのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



体育祭



スピード綱引き



棒倒し



閉祭式



3 年生全員集合～！

(PTA 会報より転載)

向陵祭



ダンス部

2 日間盛り上がりました



吹奏楽部

お聴きくださったみなさん
ありがとうございました。



寄付者・会費納入者一覧

平成27年度中に寄附金・年会費をお振込頂いた方々です。(敬称略)
尚、3,000円以上の納入は寄付者扱いとして掲載させて頂きました。
ご協力誠にありがとうございました。有効に活用させていただきます。
尚、記載漏れがありましたらご連絡下さい。(28年1月末日)



寄付者名一覧

- ◆旧職員
井口 磯夫
池永 武昭
石井 隆夫
岡本ゆり子(滝口)
北村 正生
北村 透
新城 具
関根 茂
戸谷 賢司
前園 実
◆現職員
神能 精一
杉淵 明子
◆昭25年卒
茅田喜久子(福田)
◆昭27年卒
大井 弘子(市川)
木村 弘子(川島)
高橋美瑛子(高橋)
◆昭28年卒
霜田 恒彰
早船セツ子
◆昭29年卒
鈴木 重雄
関 紀子(入江)
瀬沼 勝
◆昭30年卒
安在 芳子
◆昭31年卒
大島美智子(裕)
岡崎 紀幸
前田 信子(山本)
◆昭31年卒
池野 通(高橋)
岡田 俊子(久保田)
小川力洋
梶田 仍美(坂口)
川端 春生(三橋)
木村 隆
佐藤 令子(安藤)
高尾 和子(杉本)
田口 照子(山田)
田中 澄子(小粥)
沼田 敬二
増子 明美(若生)
三田 昌男
山本 越子(福永)
◆昭32年卒
金沢 英夫

- 櫻井 弘清
津坂 敬子(石神)
◆昭34年卒
川勝 洋子(橋本)
立花 玲子(古川)
永田 正博
福本 力
◆昭35年卒
五十嵐光俊
金子 操子(村瀬)
久保 雄南
友部 佳子(立川)
能州 良彦
◆昭36年卒
岩井 和子(大野)
遠藤 泰紀
田中 正明
浜口 宗武
◆昭37年卒
松垣 宏道
勝部 邦彦
角田友子(杉山)
寺村 光司
宮下紀恵子
◆昭39年卒
河北 迪子(浅沼)
湯浅美保子(奈良)
◆昭40年卒
大西 政男
海和 秀男
小山由記子(吉田)
澤田 孝子(藤村)
新谷 重子(小沢)
杉浦 重治
◆昭41年卒
尾道 郁代(大橋)
長谷川三枝子(原)
原 淑子(近藤)
前島 輝子(中島)
溝口 進一
吉田 恵子
◆昭42年卒
岩崎 芳秋
大森 久雄
米谷 省吾
皆川 和美
◆昭43年卒
榎本 裕子(高橋)
◆昭45年卒
板橋 隆
金澤 信子
仙谷 剛

会費納入者名一覧

- 宮久保 渡
山口 義朗
◆昭46年卒
石下 淑恵(柴田)
恩村 一郎
笹山 幸子
福尾 聰恵(吉田)
◆昭47年卒
尾崎 富雄
佐川 海道
佐々木郁子(遠野)
堀田 睦夫(赤沼)
山崎 秀晃
久保田郁子(加藤)
高根 優子
本多 和子(国分)
◆昭49年卒
今出 隆久
小谷賀津子(岡本)
◆昭51年卒
萩谷 忠
渡辺 陵子(木村)
◆昭52年卒
門馬 宏子
◆昭55年卒
新井 清一
佐藤 毅
◆昭58年卒
篠野 敏弘
◆昭61年卒
今井美代子(清水)
金澤 祐
渡辺 大基
◆昭63年卒
目黒 利枝(菊池)
◆平元年卒
横山 信夫
◆平5年卒
高橋 康隆
◆平22年卒
高崎さつき
◆平26年卒
瀬川也々加

- 水上 實(永上)
◆昭27年卒
幸田 俊子(宮田)
児玉 恵子(児玉)
酒井美代子
瀬戸口弘子(馬場)
長谷川千代(中沢)
舟橋 和子(荒川)
◆昭28年卒
岩松 英子(塚田)
内山 庸子(豊田)
江島 さく(荒川)
久保田慶子(佐々木)
黒川 洋洋
小林 洋子(庄司)
小川 恰子(足立)
鈴木 梅代(山本)
関 富士夫
竹内佐代子
辻本佳津子(池亀)
◆昭29年卒
内丸 喜代(木嶋)
口岩 久男
佐々木佑介
鈴木 芳子(山崎)
高野 禎子(金安)
星 直正
◆昭30年卒
上田 明
大竹 行子(吉葉)
緒方 素
久野 裕
曾根 尚郎
棚瀬 妙子(佐藤)
中川 貴子(山崎)
中津川年江(曲田)
長縄 信孝
中村 素子(河野)
野本 一子(堀越)
堀江 章子(牛山)
牧田 信行
松田 永子
山田 正弘
◆昭31年卒
飯塚子工子(市川)
居村 正久
榎本 禮子(中村)
榎本 光枝(終)
遠藤 恭子(山田)
大江 昭子(渡辺)
太田百合子(英)
柏 やよい(保田)

- 唐沢 佳子(太田)
日下 京子
古崎 英子(白井)
小林 秀行
近藤 義順
佐藤佐江子(森)
末吉 弘明
鈴木やす代(瀧美)
高橋マサ子(石川)
中村 敏子(関根)
西村 トシ(今福)
飛矢崎美智(今村)
深瀬 恒矣
黒居 晃
村上 満男
芳野 幸子
◆昭32年卒
小西 圭子(城)
佐藤 元是
春川 園子(勢)
藤沢寿美子(竹内)
吉川八重子(篠崎)
◆昭33年卒
伊藤 康晴
小林 清明
中川 健男
◆昭34年卒
浅利 拓哉
植山榮次郎
乙部たみ子(新名)
折本 輝子(増田)
栗田 誠吾
古林 徹
小柳 丹
藤崎寿美江(岩田)
三木 皓一
三木 桃子(竹谷)
村木 豊彦
森木 紘子(太田)
山北 宣久
山崎 正紀
◆昭35年卒
池辺 弥生(星野)
大久保圭子(久保)
大高 勝子(関)
清水 幸明
永沢 治子(山本)
難波田久子(土井)
三浦みさ子(江島)
山田ひろみ(清水)
山本 一智(高橋)
◆昭36年卒

- 我妻 真典
遠藤 仁美(榎本)
奥村 誠
寺尾ヒロミ
真塩 共栄
◆昭37年卒
阿部多恵子(随原)
坂谷 勝
今村 春江(星)
小黒 由明
鈴木多可子(浅賀)
永井 良子(樋口)
南方 洋子(富田)
福永 邦彦
宝珠山邦子(近藤)
山口 洋子(上野)
山崎 政利
渡辺 光寛
◆昭38年卒
海沼 裕子(小城)
谷口 昭夫(筒山)
宮澤 博子(興津)
◆昭39年卒
上野美江子
大橋いづ子(会田)
北田 照子(天山)
能州 慶次
盛岡 治英
◆昭40年卒
相澤 妙子(戸川)
秋山 浩一
阿部 裕子(山田)
石田美智子(村田)
井上 芳子
内田 淳子(青木)
斎藤由紀雄
齊藤 紀子(栗嶋)
相馬久美子(飯田)
竹内 裕子(清水)
橘 明
◆昭41年卒
伊藤 義則
井村 忠
岩崎 淳(村越)
大村美登里(吉田)
川添奈津子
坂井 右紀
杉山 雅之
谷嶋二三男
原口 秀子
東山 敏子(黒沢)

- 町田 悦子(藤)
山沢 尚子(立石)
渡辺 恵美(高田)
◆昭42年卒
橋川 道雄
柳田 照良
高野 一義
増田 恵一
渡辺 幸恵(岩永)
◆昭43年卒
石川 明枝(石川)
岡村由利子
梶野千恵子
加藤 和子(大久保)
◆昭44年卒
中川 良憲
中村 敏彰
◆昭45年卒
飯野 正則
加藤 篤子(内藤)
加藤 和子(堤)
高山 章子(結城)
滝田 茂子
戸部 実
松上 恵一
◆昭46年卒
井出 啓子(太田)
加藤 清一
小林 正夫
内藤 天世
中村恵太郎
三池美恵子(朝倉)
吉田登志子
石井 洋子
酒井 義夫
清水 英明
藤堂 順子
若山 孝之
◆昭47年卒
柿沼 好明
丹下 薫
橋本 多加
◆昭48年卒
長谷川敬子(高倉)
遠藤 清孝
小高 智子(池田)
柏 英明
斉藤 明良
須賀 福子(牧野)

- 並木 一成
◆昭49年卒
石井徳太郎
上野 一成
川崎すみ子(白石)
川島 清次
辻 薫
並木多鶴子(大金)
横山久美子
◆昭50年卒
大西 絹子(田口)
永井すま子
◆昭53年卒
中沢香代子(近間)
◆昭55年卒
大島さと子
田坂ひとみ
◆昭56年卒
武智 弘英
高木 康孝
成岡 美佐
◆昭58年卒
林 英子(熊谷)
◆昭60年卒
内田 明美(内田)
松永 一恵(谷津)
◆平元年卒
山元 平太
◆平2年卒
奥山 貴之
◆平5年卒
雨宮 直子
◆平10年卒
高橋 美法
◆平11年卒
吉田 宗弘
◆平21年卒
浅野 悠樹

運営費にご協力をお願い
会活動活性化に向け、ご提案・ご寄付・年会費等
のお振込みを、ご協力お願い申し上げます。

平成27年度 総会資料
都立向丘高校同窓会

平成27年4月26日(日)
於 駒込「磯太郎」

《 報 告 事 項 》

[事業報告] 平成26年度分

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

1 役員会(幹事会)
H26年 4月13日(土)
会計監査会 3名参加 於 小川事務所
H26年 11月29日(土)
幹事会兼「やよい」企画会議
10名参加 於 駒込「磯太郎」

2 総会/懇親会 於 駒込「磯太郎」
H26年 4月27日(日)
12:00～12:30

報告事項・決算、事業計画・予算案、役員案すべて、満場一致承認 40名参加
12:30より懇親会。自己紹介などで多
いに盛り上がりました。
会報25号2項参照

3 研究活動(全国大会)
H26年 5月25日(日)
群馬県高崎市大会 12:00～
11名参加 於 市内ホテル
会報25号8項参照
9月13日(土)～14日(日)
向陵祭に写真作品を出展 3名参加
於 母校3階会議室「田中・小川氏」
土曜日にOB・役員参観あり、5名。

4 ホームページの充実について
①実務打合せ(メンバー 宮久保・仙谷・日黒・

椎名)3回開催

5 会報関係について
H26年11月29日(土)
会報企画打合せ
10名参加 於 駒込「磯太郎」

H27年 1月12日(日)
「やよい」編集委員会と校正
10名参加 於 駒込「磯太郎」

H27年 1月28日(水)
「やよい」編集委員会と校正
4名参加 於 駒込「磯太郎」

3月6日(水)卒業予行会に配
布できるよう母校に搬入した。1200部
(在校生750、新入生250、学校等)

6 渉外関係
H26年4月8日(火)入学式に宮久保会
長・小川前会長と田中相談役が参列した。
於 母校体育館
6月21日(土)PTA主催の教職
員歡送迎会 小川、仙谷参加
於 ホテルメトロポリタン飯田橋

11月30日(土)PTA・OB会主
催の懇親会 小川が参加
3月12日(木)卒業式準備会に
宮久保が卒業生に挨拶をした。

H27年3月13日(金)卒業式に宮久
保会長と小川前会長・田中相談役が参列し
た。於 母校体育館
H27年3月13日(金)PTA主催の卒
業式を祝う会に宮久保会長が参加した。

於 ホテルメトロポリタン飯田橋
学校運営協議会に、宮久保会長、田中相談
役参加、年2回

7 生徒への応援

H26年7月18日 終業式において、
女子バレー部、剣道部、吹奏楽部、華道同
好会、卓球部、茶道部、ダンス部の健闘を
称え、奨励金計10万円渡す。
会報25号8項参照

H26年12月17日 学校との共催で、
OBによる進路講演会を開催
45年卒 粕谷卓志氏
会報25号8項参照

8 卒対関係

H27年3月4日(金)第65回卒業生
の入会者275名(卒業生全員)について、
入会記念品としての個人用特注印鑑を予行
日に各組担任先生からお渡しを戴いた。

[決算報告] 左記決算報告のとおり

《 審 議 事 項 》

[事業計画] 案 平成27年度分
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

1 総会・懇親会開催の件
やよい25号1頁参照①
H27年4月26日(日)
2 全国大会・やよい会
山梨県甲府市大会開催の件
やよい25号1頁参照②
H27年5月24日(日)
3 ホームページの充実
ホームページを充実させるため、努力をしま
す。

①同窓生の同期会・クラス会・クラブOB会
など多くの情報を戴き、発信します。
②既発行分の「やよい」の掲載をします。
③卒業写真など、掲載していきます。

4 向陵祭参加とホームカミング開催の件
やよい24号1頁参照④

向陵祭H27年9月12日(土)～13日(日)
5 同期会・クラス会等への通信費の助成、各
期の住所をお知らせします
同期会開催へ2万円を補助。クラス会・クラ
ブOB会にも補助。報告文を受け取り次第、
代表幹事の指定口座宛お振込致します。会合
の集合写真等を添えて宮久保会長宛速やかに
郵送して下さい。

6 広報誌の発行と発送(会員相互の意思の疎
通を図るため)
平成28年3月に「やよい」26号発行の予
定(会員・クラス会・同期会等の適切な投稿
を歓迎)。原稿締め切りは1月末とする。

7 新卒業生の入会者に記念品特注印鑑セット
を贈呈する。

8 在校生に対する応援事業
クラブ活動などに助成。学校・PTAと協力し、
OBによる在校生への講演会等の開催。

9 年会費、寄付金ご協力をお願い
新卒者の入会金の殆どは会報関係に充当。年
会費は1口¥1,000～¥2,000程度運
営費としてご協賛をお願い致します。
年会費込み3,000円以上の送金は寄付金
扱いと致します。

11 70周年準備会
創立70周年に向け、学校及び在校生に向け、
記念になるものを送ります。具体的には、学
校及びPTAと相談して進めます。

12 次期定期総会の件
やよい26号紙上にて発表予定

[予算] 案 左記予算案のとおり

平成26年度会計報告及び及び平成27年度予算

都立向丘高等学校同窓会
平成27年3月31日

収入の部	26年度決算		27年度予算	
	金額	金額	金額	金額
入会金(⑧8,000円)	2,216,000		2,200,000	
年会費(含寄付金)	726,000		800,000	
総会懇親会費	88,000		100,000	
全国大会費	30,000		100,000	
諸会費収入	40,000		30,000	
雑収入	0		0	
前年度繰越金	2,827,840		3,112,868	
収入合計	¥5,927,840		¥6,342,868	

支出の部	金額		金額	
	金額	金額	金額	金額
全国大会関係費	125,018		150,000	
交通費	71,160		100,000	
通信印刷費	140,402		200,000	
会議費	50,658		150,000	
総会懇親会費	114,225		150,000	
催物関係費	21,240		50,000	
慶弔費	0		100,000	
研究活動費	55,173		100,000	
振興助成費	7,000		100,000	
会報関係費	1,600,000		1,650,000	
渉外費	33,057		50,000	
改発費	139,779		300,000	
生徒激励費	100,000		100,000	
卒対費	99,700		100,000	
周年準備費	250,000		250,000	
雑費	7,560		10,000	
支出合計	2,814,972		3,560,000	
次年度繰越金	3,112,868		2,782,868	
総合計	¥5,927,840		¥6,342,868	

周年準備金積立合計 ¥750,000

上記の通り収支報告申し上げます。

平成27年4月26日 同窓会会長 宮久保 渡
会計 尾道 郁代 長谷川三枝子

監査の結果誤りの無いことを認めます。

平成27年4月11日 監事 三田 昌男 櫻井 弘靖

同窓会役員名簿

平成28年(2016)年1月20日現在

顧問	新城 昇	歴代校長
"	池永 武昭	"
"	北村 透	"
"	北村 正生	"
"	石井 隆夫	"
"	戸谷 賢司	"
"	前園 実	"
"	関根 茂	"
名誉会長	神能 精一	校長
名誉顧問	小川 力洋	31年卒
会長	宮久保 渡	45年卒
副会長	杉浦 重治	40年卒
副会長兼会計	尾道 郁代(大橋)	41年卒
"	仙谷 剛	45年卒
書記	笹山 幸子	46年卒
"	佐々木 郁子(遠野)	47年卒
"	今井 美代子(清水)	61年卒
"	目黒 利枝(菊池)	63年卒
会計監事	三田 昌男	31年卒
"	櫻井 弘清	32年卒
西日本地区幹	高尾 和子(杉本)	31年卒
新潟地区幹事	小山 由記子(吉田)	40年卒
仙台地区幹事	吉田 恵子(吉田)	41年卒
静岡地区幹事	増子 明美(若尾)	31年卒
茨城地区幹事	友部 佳子(立川)	35年卒
札幌地区幹事	恩村 一朗	46年卒
事務局	杉淵 明子	副校長
相談役	川端 春生(三橋)	31年卒
"	田中正明	36年卒

各期幹事

- 星 直正 29年卒
- 居村 正久 31年卒
- 友部 佳子(立川) 35年卒
- 井上 芳子 40年卒
- 坂井 右紀 41年卒
- 谷嶋二三男 41年卒
- 戸部 実 44年卒
(minorutobeaddress@gmail.com)
- 粕谷 卓志 45年卒
- 中村恵太郎 45年卒
- 大場 孝秋 46年卒
(spw99fy9@key.con.ne.jp)
- 佐川 海道 47年卒
- 斉藤 明良 48年卒
- 浦野 良一 55年卒
(ru0316@i.softbank.jp)
- 浅野 悠樹 61年卒
- 岩田 隆英 H6年卒
(iwatasana@gmail.com)
- 横山 李孝 H1年卒
(soutakento@gmail.com)

クラブOB会世話人

- 軟式テニス部 谷嶋二三男(41年卒) f-tanisima@ac.auone_net.jp
- テニス部 長谷川広之(51年卒) h09089490725@mopera.net
- サッカー部 仙石 剛(45年卒) tsuyoshi.senya@gmail.com

計 報

心よりご冥福をお祈り申し上げます。
ご報告のありました方のみをお知らせしております。

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 奥田 宏(旧職員) H27.5 | 松島 伸高 S37年卒 H26.7.22 |
| 山田 鶴代 S27年卒
(旧姓三浦) | 村山のり子 S41年卒
(旧姓佐藤) |
| 石井 武男 S28年卒 H25
(旧姓田中) | 高木 達雄 S42年卒 H26.9 |
| 樽見十志江 S28年卒 H26.11 | 日下部悦子 S44年卒 H27.10
(旧姓白井) |
| 永田瑛理子 S30年卒 | 六浦 行雄 S44年卒 H27.3 |
| 三浦 洋子 S30年卒 H21.12.7 | 遠藤 正子 S45年卒
(旧姓飯島) |
| 長坂 洋子 S31年卒 H25.9 | 齊之平裕二 S45年卒 H24 |
| 細田美津子 S31年卒 H24.1.31
(旧姓森) | 石井 寿子 S46年卒 |
| 鈴木 信雄 S31年卒 H20.10 | 保井 樹哉 S49年卒 |
| 鈴木 光王 S32年卒 H26.6.12 | 平井 進 S49年卒 H22 |
| 塚本 宗一 S32年卒 H27.3 | 鈴木 深雪 S55年卒 H26.8
(旧姓桶谷) |
| 郡司 茂代 S34年卒 H26.11 | 城井 浩二 S59年卒 H12.6 |
| 福本 力 S34年卒 H26.6 | 小島 恭子 H6年卒 H27.3.9
(旧姓新保) |
| 保野晋一郎 S34年卒 H26.8.4 | 酒井 明子 S35年卒 H25.8
(旧姓本名) |
| 渡邊 訓子 H6年卒 H25.6
(旧姓橋本) | |